

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣先機関等利用マニュアル

2010 年 10 月 30 日

派遣者氏名（専門分野）	吉田大輔（比較文学）
-------------	------------

派遣期間	2010 年 9 月 1 日 ～ 2010 年 9 月 10 日
------	----------------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
英国	ロンドン	British Library

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

British Library に入館する際は、手荷物のなかを一度係員に見せ、危険物を持っていないことを確認してもらってから入館する。

利用するにあたり、Reading Room に入る際はもちろん、その他諸手続きの際に必ず必要となるのが Reader Pass である。まずこれを発行してもらわなくてはならないのだが、この発行をスムーズに行うためには、同館のホームページ上において、Pre-Register とあるところから事前に予約を行っておくとよい。その手続きが完了した際に向こうから送られてくるメールを我々のグループは各自印刷して持参した。同館到着後、Reader Pass を発行する Reader Registration office に向かい、メールに記載されていた予約番号のようなものを申請用紙に記入したうえで、一人一人、住所確認のうえ、Reader Pass の発行を行っていただく。朝九時半から開いている。訪問前のミーティングにおいて引率の秋田茂教授から事前に指示があり、住所確認のできる公的請求書の類も持参したが、秋田教授が同館の日本語対応可能なスタッフにあらかじめ連絡をとって下さっていたこともあり、結果的には日本語の運転免許証による住所確認とパスポートによる本人確認でことが足り、非常にスムーズに進んだ。あるいはこのことは、我々の滞在期間が一週間程度だと話したことで、一カ月のみ有効な Reader Pass が発行されたため、より長い期間利用可能な Pass を発行してほしいのであればもっと煩瑣な手続きが必要となるのかもしれない。Reader Pass は写真いりで作成されるが、ここに記載される写真は、このときカウンターで撮影される。確認と撮影を済ましたら呼ばれるのを待って Reader Pass を受け取り（そんなに時間はかからない）、あとは各自、自分の調査に関係する Reading Room に赴く。

その前に、Reading Room に持ち込んではいけないものなどを預けるために、コインロッカーに寄る。持ち込みが禁止されているのは、コート（脱いでコインロッカーに預ける）、カバン（ロッカールームに置かれている透明な袋に持ち込みたいものを詰め替える）、傘、ペンやマーカーの類、尖ったもの、アメ、ガム、ペットボトルを含む飲食物、それにカメラである。コインロッカーの使用には 2 ポンド硬貨を用いる（使用後返却される）。ノートパソコンや携帯電話は持ち込めるが、音が出ないようにしておかなくてはならない。

私がずっといたのは、Rare Books and Music Reading Room という部屋である。同館二階（イギリス式に言えば一階）に位置する。入室の際には、入口に座っている係官に、Reader Pass と袋の中身を見せる必要がある。入ったら、まず、席をとる。席をとったら、O PAC で検索し、見たいものがあれば、カウンターで依頼する。すぐに届くものも、一日かかると言われるものもある。私が見た本のうち大部分は頼むとすぐに出てきたが、頼んだ翌日受け取ることになった本も一冊あ

る。

私は、見たい本のほとんどがヴィクトリア期のものなので、閲覧にあたって難しいことは言われなかった。ただ、頼んだが、**Missing**と言われ、見ることがかなわなかった本もあった。帰る際には、あしたも来るからこれをキープしておいてくれ、とカウンターに言って本を返して帰り、翌朝、またあのキープしてもらっていた本を出してくれ、と言って、これを受け取り勉強をはじめ、これを繰り返した。

複写をしたい場合、**Rare Books and Music Reading Room**では一番奥に位置している複写室を利用する。まず、その部屋に入り、カウンターにいるライブラリアンに複写したい本を見せ複写してもよい本か確認してもらおう。そののち幾ら入金するか聞かれるので、これに答えたうえで、クレジットカードで決済する。この入金情報は、**Reader Pass**に記載されている番号にただちに反映されている。コピー機に、自分の**Reader Pass**の番号を入力すると、残金が表示される仕組み。あとは英国の著作権に触れない範囲でコピーがとれる。ライブラリアンにより仕事の向き合い方はさまざま、取ったコピーをきちんと確認する人もいるが、別に確認しない人もいる。コピー機は二台あったが、私がある日利用したコピー機はトラブル続出、あげく使用禁止の札を貼られ、その日は一台のみが稼働していた。**British Library**での複写は非常に高いので、この点注意が必要。また昼時には一時間ほど複写室は閉まる。